

今週は、天候気候への不満を改めた結果、事業商売が好転した事例をご紹介します。

一般的に倫理とは主として人のあり方を対象としますが、倫理法人会で学ぶ「純粹倫理」は、人以外の物や自然もその対象に含みます。そこから金銭、天候気候や地球に対する倫理へと派生して考えるようになってきました。

ある地方でうどん店を営むMさんには悩みがありました。雨の日になると、売り上げが落ちることです。店は駅から徒歩数分と好立地ですが、雨の日は客足が鈍ります。晴れの日と雨の日の売り上げを比べると数万円の差があり、時季によつては経営を圧迫してしまふほどでした。

ニュースの天気予報で、「明日は雨です」と聞くだけで胸がムカムカするMさん。途端に気分が悪くなり、よく眠れないことさえありました。常連客からは「疲れが顔に出ているよ」とまで言われる始末です。

そこで、知人の勧めもあり、倫理指導を受けることにしたのです。Mさんが悩みを打ち明けると、講師から次のように言われました。「事情は分かりました。Mさんは雨の日の売り上げが悩みと言いますが、そもそも雨に対して何か嫌悪感をお持ちではないですか」。

講師の言葉は凶星でした。Mさんは雨が大嫌いでした。理由は、これまでの人生において、自分にとって大切な日に限って、高確率で雨が降っていたからです。小学校の入学式から始まり、運動会、遠足、卒業式…。それは、大人



4月のテーマ | 自然賛歌

天候気候への心持ちが 事業の好循環を呼ぶ

になった今でも変わりません。周囲から「お前がいると雨が降る。雨男だ」とからかわれ、その度に嫌な思いをしました。そのため、雨の日は暗い気持ちで過ごしていました。

しかし講師から、「Mさんの仕事は、水を大量に使いますよね。うどん粉に水を加えて生地を作る、麺を茹でる、つゆを作るなど…。その水は、元を辿れば雲から降ってきた雨です。自然から与えられる恩恵に感謝の気持ちを持つてないから、商売が上手くいかないのです。今後は水を使用する際に、式をとってはいかががでしょうか」と言われました。

「たしかに自分の商売にとって水は大切なもの。元は雨だ」と気づいたMさん。翌日から「式をとる」ことを始業時と終業時に行ないました。「どうぞよろしくお願いします」「今日一日ありがとうございました」と水への感謝を声に出しながら一礼し、大切に扱うように心掛けました。

続けていくと、雨の日に曇っていた気持ちが、少しずつ晴れていきました。寝不足もなくなり、頭の中がすっきりして、自然とアイデアが浮かび、「雨の日限定メニュー」「雨の日割引」等を考案したのです。すると雨の日にお客様が増え、雨の日は、かけがえのない存在に思えてきたのです。

天候気候に対して、倫理研究所の創立者・丸山敏雄は、「順応（すなおに受ける、不足に思わない）」と「畏親」（敬い畏れる、親しむ）が大切だと述べています。

Mさんの事例は、自然の偉大な力に対して、どのような姿勢・態度で臨むべきかを教えてくれます。

（本文参考文献・『純粹倫理原論』丸山敏雄著／倫理研究所）